

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスcolor		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 12日		～ 2024年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2024年 9月 12日		～ 2024年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「身辺自立」 週間プログラムに「生活」を取り入れ、買い物、掃除、料理、身だしなみ、言葉遣い、感情のコントロール、表情トレーニング等のトレーニングを取り入れ、身辺自立が少しでもできるようになって日々の生活が充実して送れるように支援している。	プログラムがマンネリ化しないようにしている。	・プログラムの内容を振り返り、良い点は継続し、強化する。悪い点は、改善点を話し合い、事業所の強みをいかしながら、子どもに合わせた支援ができるよう取り組んでいる。 ・個別支援と集団支援をうまく折り交ぜ、子どもが競いながらも遊べる・楽しめるよう取り組んでいる。
2	「視覚・作業トレーニング」 トレーニングを通して目でものの性質や状態を捉える力を高め、見たものを正しく認識したり、自分の体をイメージ通りに動かす機能を向上させ、生活や学習上の困りごとを改善したりスポーツのスキルアップが目指せるよう支援している。	遊び感覚で取り組めるようにしている。 社内研修や保護者会で職員、保護者に手順や方法を伝えている。	・内容がマンネリ化しないよう適宜見直しを行っている。 ・職員会議や社内研修で、手順や方法に誤りがないかをチェックしている。
3	「イベント」 土曜日、祝日、長期休暇に地域交流会、公園遊び、工場見学、体験教室、奉仕活動等を通して沢山の経験を積み、ルールやマナー、協調性を養えるように支援している。	日々の情報収集や他事業所との交流。	・未体験、未経験のイベントも組み込み“初めて”に出会えるようにしている。また、“初めて”のことに萎縮してしまう子どもへの支援も事前に考え、参加できる・取り組めるようにしている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「重度障害への支援」	重度障害の子どもが通所している子どもの一部のため、職員の直接の支援経験が少ない。	・自己研鑽 ・社外での経験や社外研修
2	「重度障害の子どもに対する個別支援の対応及び集団行動への参加対応」	重度障害の子どもが通所している子どもの一部のため、職員の直接の支援経験が少ない。	・自己研鑽 ・支援内容の情報収集 ・社外での経験や社外研修
3	「職員の平均年齢の高齢化」	・若年層へのアプローチ不足 ・広報活動の不足	・若年層に向けたアプローチ ・大学や社会的な場での広報活動 ・実習生の受入れ